

農村工学技術研修の開催について

技術移転部技術研修室

1. はじめに

令和3年度の農村工学技術研修については、計画していた16研修のうち、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が少ない4月～7月の期間に、座席間隔の確保や感染防止対策を徹底した上で、集合研修6コースとWeb講義として「ため池防災・減災技術研修」の1コースを開催し、計7コースを実施しました。8月23日以降は、新型コロナ第5波の影響により8コースを中止し、「農村振興係長A研修」をWeb講義に切り替え実施しました（資料1）。

令和4年度の農村工学技術研修については、昨年度1回しか開催できなかった「基礎技術研修」を1回増やし3回実施することとし、全17の研修を実施します。また、研修期間が長期間に及ぶ「基礎技術研修」や研修期間が2週間の「用水計画と河川協議研修」については、研修生が参加し易いよう研修期間の一部をWeb形式とし集合形式の研修時間を短縮するなど研修内容の見直しを行いました（資料2）。

なお、昨年度も実施した感染防止対策（講義室が密集しないよう人数制限を設けて座席間隔を広くする、研修中のマスク着用、宿泊棟は一人一部屋とし談話室の使用禁止、宿泊施設内の複数での飲酒の禁止、毎朝の検温、密を避けクラスター発生の原因となる行動を制限）については、引き続き実施していきます。

2. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様Web形式（eラーニング）で実施しました。本研修は、①研修内容は、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GISソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習のみとする（講義、班別演習は行わない）、②研修生は、基盤地図情報(数値標高モデル)を国土地理院のサイトから取得し、SIPONDは送付されたドングル(USB)をPCに接続してインストールをするなど農工研から送る資料を見て各自で事前準備を行うとともに、演習も資料に沿って各自進める、③講師側は、担当するグループ(地域防災グループ)が事前準備の資料作成から研修期間中の問い合わせ対応をするとともに、共同研究においてSIPONDを開発したニタコンサルタント(株)の協力を得、技術研修室がロジを行う、という体制で実施しました。研修期間は5月16日～20日の5日間とし、研修生の参加人数は43人(国1人、都府県26人、土地連16人)でした。研修実施後の研修生からの意見として、良かったというコメントでは、「今回の研修が非常に参考になった。」「研修で学んだことを今後の業務に活かしていきたい。」「メールでの問い合わせに研修講師が丁寧に対応して頂き不安なく進められた。」などがありました。一方、苦勞したというコメントとして、「職場のセキュリティ環境が厳しくパソコンの設定に時間を要した。」などがありました。研修生から頂いた意見を参考にして、より良い研修となるよう検討していきたいと考えています。